

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

コウノトリも住めるまちづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

豊岡市

3 地域再生計画の区域

豊岡市の全域

4 地域再生計画の目標

豊岡市は、兵庫県の北東部に位置し、北は日本海、東は京都府に接し、中央部には円山川が悠々と流れている。海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐山国立公園に指定され、多彩な四季を織りなす自然環境にも恵まれている。

本市の気候は、日本海型気候に属し、年間の寒暖差が比較的大きく、山間部では冬に降雪が見られる。一方、平野部では、夏は高温多湿で湿潤な日が多いことから水稲をはじめとした農業が盛んに行われている。

また、本市は、県内で最大の面積を有するまちであり、市域の約80%を森林が占めている。しかし、近年は、農林業従事者の高齢化と後継者不足により手入れが行き届かず森林の荒廃が進むなど、自然環境の保護がまちづくりの課題の一つである。

こうした中、本市は、日本でコウノトリが最後まで生息した地域であり、コウノトリの野生復帰をまちづくりの柱としている。これは、「単に絶滅の危機に瀕しているコウノトリという種を保存するだけでなく、コウノトリも住める豊かな環境（自然環境、文化環境）を保存、再生、創造することこそ、そこに住む人間にとっても豊かな環境である。」との認識のもと、「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」の実現を目指すものである。その実現に向けた施策の一つとして、平成17年に「豊岡市環境経済戦略」を策定し、各事業への取組みによって、環境と経済の共鳴するまちづくりを推進している。

環境経済戦略は、環境への取組みが経済効果を生み、その経済効果によって環境をさらに良いものとするとともに、地域が経済的にも自立することを目指すものである。

【目標】

本市では、環境経済戦略の具現化に向けて、木質バイオマス（エコエネルギー）利活用を重点的に推進することで、地域資源利活用システムを構築する。

具体的には、地域資源である市内の木質バイオマス（間伐材、林地放置材）を燃料化し市内で有効活用することで、優良材の生産促進・地産地消を推進するとともに、荒廃が進む森林本来の機能（保水能力・生態系）を再生し、災害を最小限に防ぐなど治山治水機能の向上を図る。

こうした木質バイオマス利活用事業の一層の推進により、間伐材搬出量やペレット

製造量の大幅な増加が必要となり、それに伴う新たな雇用も創出される。また、市民の自然環境保全への意識高揚が図られるとともに、現在使用されている化石燃料ボイラー・ストーブの木質ペレット使用への入替えにより、CO₂ の排出削減が促進され、地球温暖化防止への貢献も見込まれる。

〔平成 24 年度末時点の目標値〕

(目標 1) 木質バイオマス利活用による森林再生面積

250ha

(目標 2) 木質バイオマス利活用による新規雇用者数

3 人

(目標 3) 木質ペレット利用施設の増加による CO₂ 排出削減量

2,500 t / 年 (平成 21 年度 83 t / 年)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

市内の木質バイオマス（間伐材、林地放置材）の有効利用に向けて、製造されたペレットを市内で使用するために、ペレットボイラー・ペレットストーブを市内の温泉施設や小・中学校などへ導入する。

また、今後見込まれる間伐材搬出量やペレット製造量の大幅な増加に対応するため、間伐事業や林道・作業道整備事業の計画を策定する。加えて、市内で燃料化（ペレット化）する製造施設の整備を図るとともに、ペレットの製造・販売主体として平成 22 年度に設立を予定する新規事業主体により、新たな雇用を創出する。

なお、ペレットボイラー・ペレットストーブの導入や製造施設の整備には、地域バイオマス利活用交付金の活用を見込んでいる。

こうした取組みにより、環境経済戦略の具現化を図るために掲げる各事業の事業効果が高まることで、新たな経済活動が生まれ、さらに環境を良いものとしていくという地域資源利活用システムの構築を図る。

5-2 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 基本方針に基づく支援措置

B1003 地域バイオマス利活用交付金(農林水産省)

地域バイオマス利活用交付金を活用して、以下の取組みを行う。

○ペレットボイラー・ペレットストーブの導入・整備

事業主体：豊岡市

事業概要：平成 19 年度から取組んでいる公共施設へのペレットストーブ導入や、温泉施設へのペレットボイラー導入を促進する。

〔公共施設〕平成 19 年度～平成 24 年度 計 156 台
うち、平成 21 年度末までに 83 台整備済
(上記は、単費整備分含む台数)

〔温泉施設〕平成 21 年度～平成 24 年度 計 4 基
うち、平成 21 年度末までに 1 基整備済
(上記は、単費整備分含む基数)

○ペレット製造施設の整備

事業主体：北但東部森林組合

事業概要：平成 21 年度に実施した設計に基づき、ペレット製造施設の整備を図る。

(施設概要) ペレット製造施設 1 式 (平成 23 年度稼動予定)

- ・製造工場 1 棟
- ・製造設備 1 基
- ・倉庫・事務所 1 棟

○地域バイオマス利活用交付金の活用実績と活用見込み

事業年度	総事業費 (千円)	国費 (千円)	事業概要
平成 19 年度	1,000	500	ペレットストーブ 2 台
平成 20 年度	13,608	6,804	ペレットストーブ 33 台
平成 21 年度	16,400	8,200	ペレットストーブ 21 台
平成 22 年度 (見込み)	318,040	159,020	ペレットストーブ 22 台 ペレットボイラー 1 基 ペレット製造施設 1 式

5-3-2 支援措置によらない独自の取組み

環境経済戦略に基づき、以下の取組みを行う。

①豊岡型地産地消の推進

コウノトリ育む農法により栽培された豊岡産コシヒカリの学校給食での使用や、全国有数の豊岡鞆の販売促進により、地産地消の機運をさらに醸成することで、豊岡の環境と事業者を支える。

②豊岡型環境創造型農業の推進

コウノトリ育む農法の推進やコウノトリの舞などを代表とする安全・安心な豊岡市認証ブランド制度の活用により、環境に配慮した農業の取組み面積の拡大を図る。

③コウノトリツーリズムの展開

豊岡の自然・歴史・伝統・文化などの地域資源をつなぐコウノトリツーリズム

ムをさらに発展するため、ツーリズムガイド養成講座や、新たな体験型ツアーの企画・検討による交流人口の増加を図る。

④環境経済型企業の集積

市単独補助金制度により実施してきた環境に配慮した独自の製品開発・技術についての支援を今後もさらに継続し、環境を良くする製品・サービスによって利益を生み出す企業の増加を図る。

⑤自然エネルギーの利用

木質バイオマス利活用のほかに、太陽電池設置施設への市単独補助金制度による支援や菜種油を学校給食・燃料で利用する菜の花プロジェクトなどにより、本市の有する自然エネルギーのさらなる活用を推進し、温暖化防止と経済活性化を図る。

6 計画期間

認定の日から平成 25 年 3 月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

地域再生計画の作成主体である市が、地域再生計画の工程表並びに市の各計画に沿った事業及び目標達成調査の結果をもって評価する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし